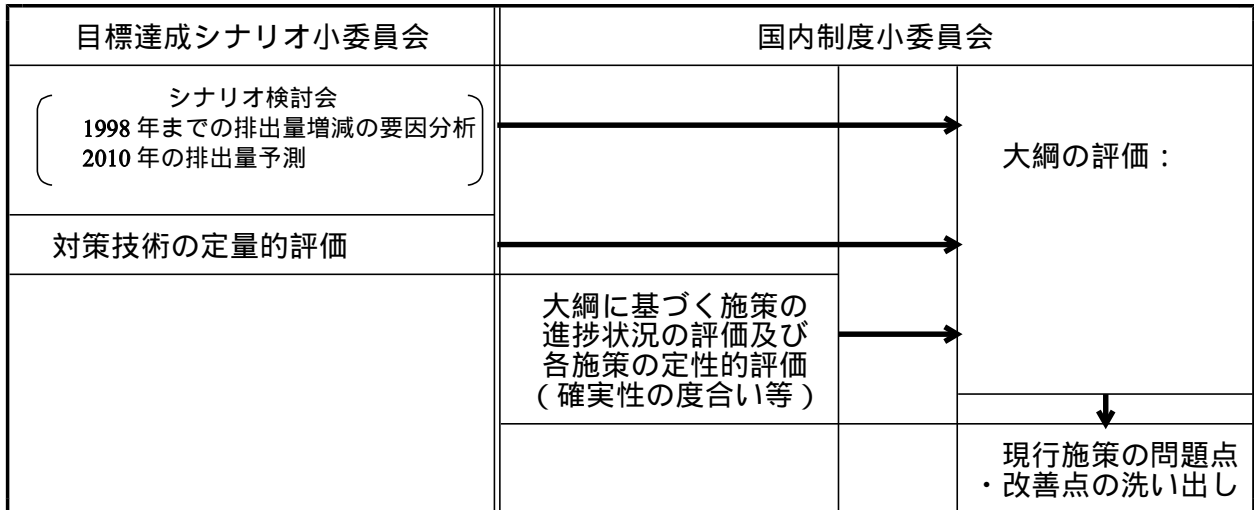


今後の審議の進め方について（案）

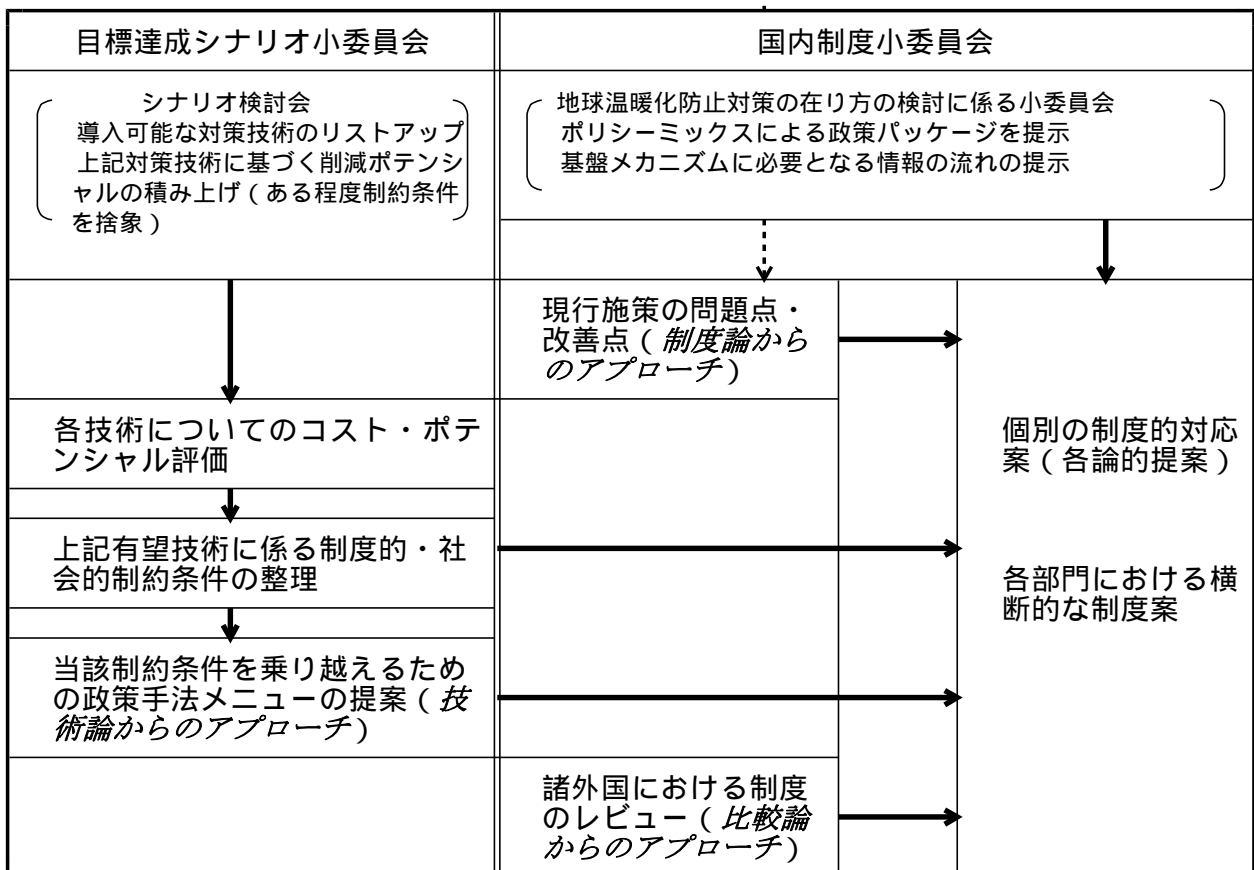
京都議定書の目標達成に向け、**2010**年時点における対策の在り方を検討する。  
 （それ以降の2020年を展望した対策の在り方については、別の機関で検討）

1. 目標達成シナリオ小委員会と国内制度小委員会との連携関係及び検討の流れ

(1) 現行施策のレビュー（各分野毎）



(2) 今後の対策の大枠案について（各分野毎）



## 2. 目標達成シナリオ小委員会における検討事項

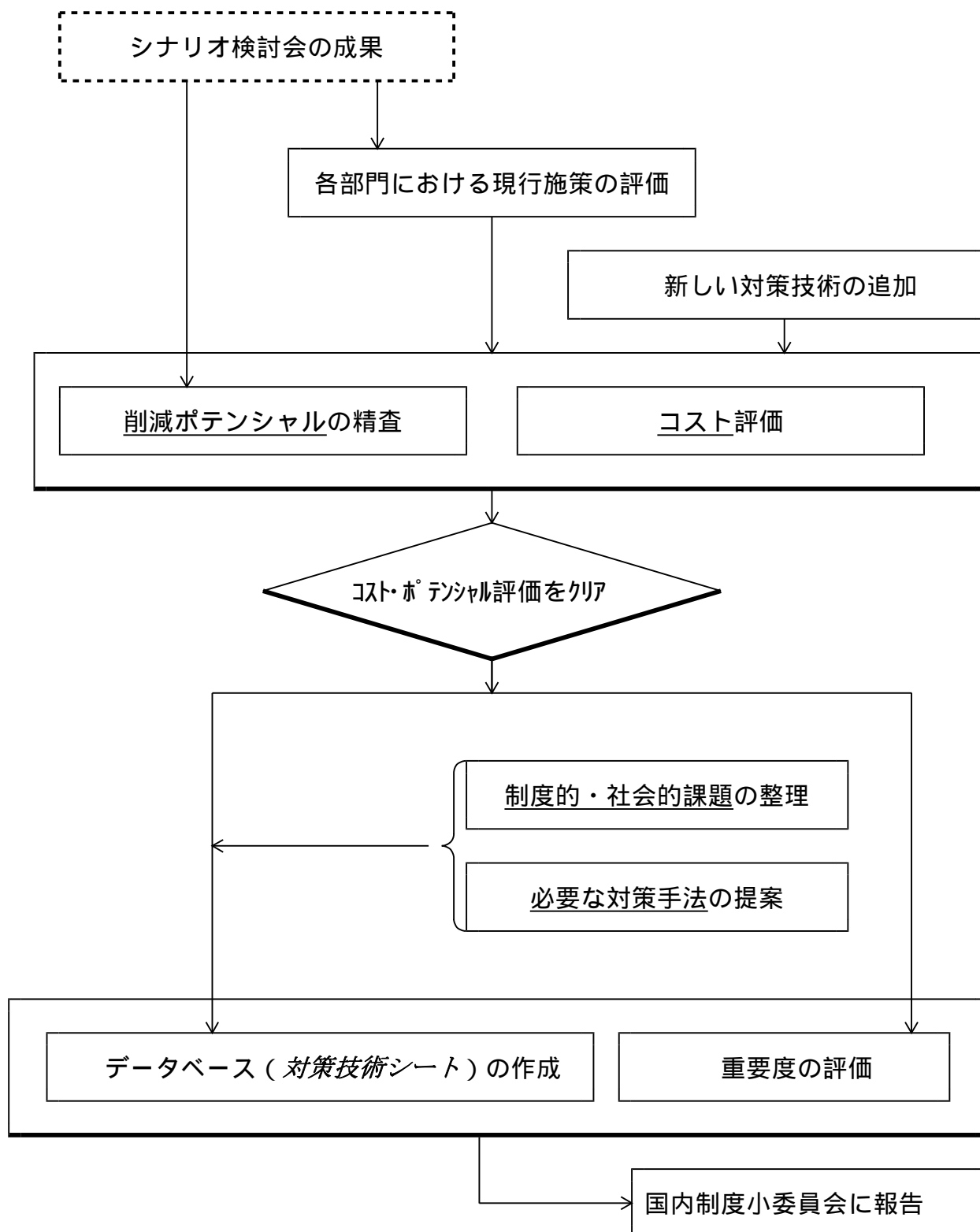


図 目標達成シナリオ小委員会における検討の流れ

(注) 下線部分が対策技術シートに盛り込んでいる内容。

印が、第1回小委員会の意見を反映している箇所。

対策技術シート

対策技術名					
技術分類		部門名		改訂年月日	年 月 日
削減ポテンシャル(百万ト)		~			
技術の概要					
克服すべき技術的課題					
GHG削減量	項目	導入技術(A)	既存技術(B)	削減量(B-A)(C)	備考
	年間 GHG 排出量				
	年間エネルギー消費量				
コスト評価	項目	導入技術(A)	既存技術(B)	備考(出典、特記事項など)	
	設備投資費(a)				
	維持管理費(b)				
	I <sup>1</sup> -費(c)				
	耐用年数(d)				
年間費用(a/d+b+c)				追加費用(A-B)(D)	
費用対効果(D ÷ C)		円/t-CO <sub>2</sub>		円/t-C	
制度的課題					
社会的課題					
必要な対策手法					
副次的効果					

### 3 . コスト・ポテンシャル評価

個々の削減技術について、コストの小さい技術から並べることにより、目標達成のために必要な総コストについて解析することが出来る。

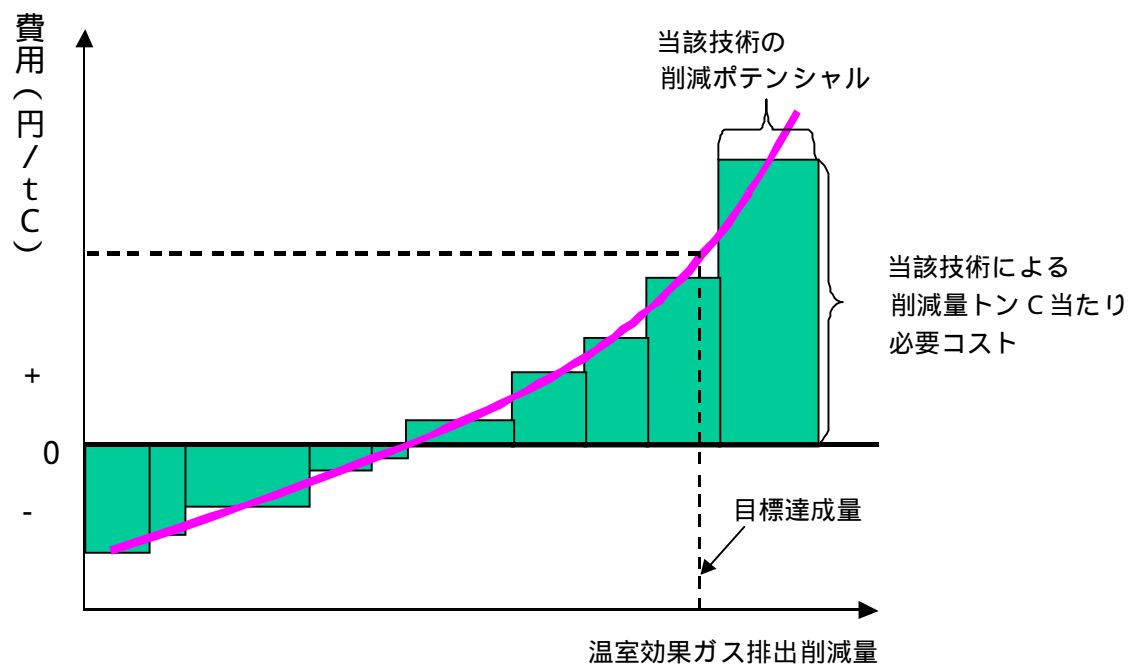


図 ある部門または日本全体における温室効果ガス排出削減量と費用の関係

(注) 一つの四角形が一種類の削減技術を示し面積が必要な総コストを示す。